

# 「国語＋数学(Ⅰ・A＋Ⅱ・B)＋英語」は、 21.9点ダウンの336.3点(得点率56.1%)!

旺文社 教育情報センター 2020年3月

今回で最後となるセンター試験は1月18日(土)・19日(日)本試験、1週間後に追・再試験が実施された。志願者数55万7,699人(前年比3.3%減)、受験者数52万7,072人(同3.5%減)で、ともに2年続けての減少である。

大学入試センターから発表された実施結果を基に、過去のデータも含めて2020年センター試験の実施結果を様々な角度から分析し、以下にビジュアルデータとしてまとめた。

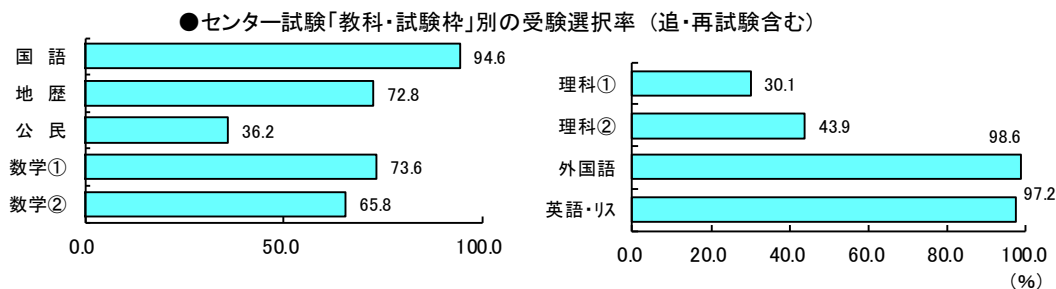
## ■「教科・試験枠」別の受験選択率

◎ 各「教科・試験枠」別の受験者数の全受験者数(52万7,072人。追・再試験含む実数)に占める割合(受験選択率＝各「教科・試験枠」受験者数÷全受験者数×100)をみってみる。

例年、センター試験(以下、セ試)受験者のほとんどが受験する外国語(筆記)受験者は51万9,618人で、受験選択率は98.6%、英語のリスニングは97.2%。国語は94.6%であった。

2015年からの現行課程先行実施で大きく変わったセ試「理科」の科目構成は、理科4領域において、それぞれ「基礎を付した科目」(標準2単位：以下、「基礎科目」)4科目と「基礎を付していない科目」(標準4単位：以下、「発展科目」)4科目の計8科目からなる。「基礎科目」は理科①の試験枠に配置され、「発展科目」は理科②の試験枠に配置されている。

理科①(基礎科目)の受験者数は約15万9,000人(前年比2.3%減)で、セ試全受験者数に占める受験選択率は30.1%／理科②(発展科目)の受験者数は約23万1,000人(前年比3.4%減)、受験選択率43.9%である。「基礎科目」の受験者数は前年より4,000人減ったが、受験選択率はアップ。しかし受験選択率は2015年の実施開始以降、6年連続、全「教科・試験枠」中で最も低い。



注 ①「教科・試験枠」別の受験選択率＝各「教科・試験枠」受験者数÷全受験者数×100。

② 各「教科・試験枠」の受験者数は実受験者数。全受験者数は527,072人。

③ 理科①は「基礎科目」、理科②は「発展科目」。／ ④ 外国語は英語を含む筆記試験、「英語・リス」は英語のリスニング。

## ■ 基幹3教科の平均点合計

◎ セ試平均点には地歴、公民、理科「発展科目」における各科目の「第1解答」(100点満点)と「第2解答」(100点満点)の得点、理科「基礎科目」(50点満点)の“2科目受験必須”の得点が混在し、それらの教科における各科目の平均点の実態は把握しにくい。

そのため、平均点の動向をみる一つの視点として、国公立大の文系・理系に共通の“基幹3教科”である国語、数学、英語の平均点合計を大学入試センターから発表された科目別平均点等の「確定値」を基に算出した。

国語/数学(数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B)/英語の平均点合計(600点満点)は、次のとおり。

**国語+数学(数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B)+英語=336.3点(得点率 56.1%)**

<前年差:得点=-21.9点、得点率=-3.7ポイント>

## ■ 「5教科6科目」の加重平均点

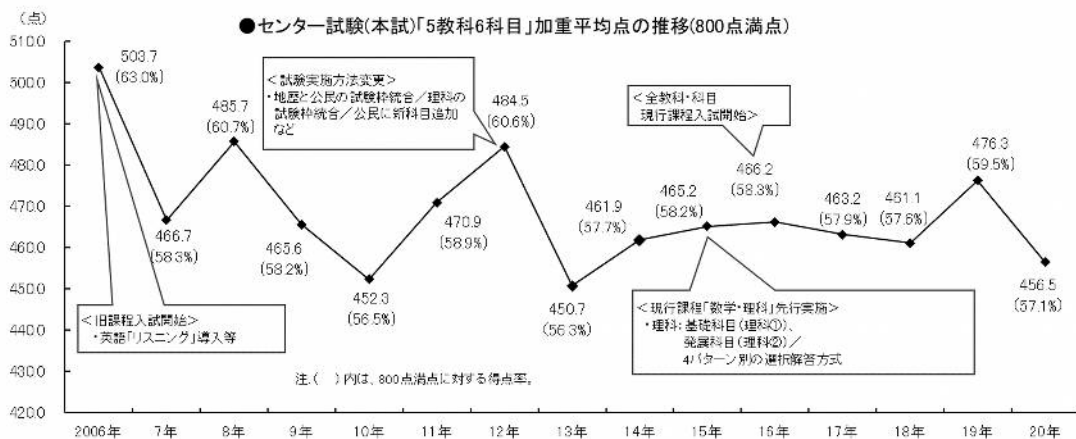
◎ 国公立大受験のセ試科目の標準の目安となる、文系・理系に共通な「5教科6科目」(国語/地歴・公民<合わせて1科目>/数学<数学①と数学②の2科目>/理科<理科①・理科②合わせて1科目>/外国語)の加重平均点(800点満点)を算出した。

2020年の結果は、次のとおりである。

**「5教科6科目」(800点満点)=456.5点(得点率 57.1%)**

<前年差:得点=-19.8点、得点率=-2.5ポイント>

前回の新課程入試(2006年。英語にリスニング導入など)の「5教科6科目」加重平均点は503.7点(800点満点:得点率63.0%)と、この14年間では最も高い。2012年の実施方法等の大幅変更(地歴・公民、理科の試験枠統合、公民に新科目設置など)の際は、484.5点(同60.6%)だった。2016年の全教科・科目の現行課程による全面実施でも対前年1.0点アップの466.2点(同58.3%)だったが、2019年は476.3点(同59.5%)と2012年以来の高い平均点となった。最後のセ試となった2020年は一転して前年から19.8点ダウンの456.5(同57.1%)となった。



注. 大学入試センター発表の各科目別平均点と受験者数(本試験、理科「基礎科目」は追・再試験含む)から算出。英語(200点満点)の平均点/地歴と公民を合わせて1教科・1科目とした加重平均点(100点満点)/数学①の加重平均点(100点満点)/数学②の加重平均点/理科①と理科②の加重平均点(100点満点)。「基礎科目」<50点満点>(32科目受験者<100点満点>追・再試験含む)の加重平均点/外国語の加重平均点(200点満点)を合計(800点満点)。8年と15年は旧課程対応の「種別指定」科目(旧課程科目)含む。19年は「得点調整」後の平均点。

## 2020年度 大学入試センター試験(本試験) 平均点等一覧[確定]

<2020年2月6日 大学入試センター発表>

教科	科目	2020年		2019年		前年差		
		受験者数	平均点	受験者数	平均点	受験者数	平均点	
<b>基幹3教科 平均点合計(600点満点)</b> 【国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語(200点換算)】		— (得点率)	<b>336.3</b> 56.1%	— (得点率)	358.2 59.7%	— (得点率差)	<b>▲ 21.9</b> ▲3.7ポイント	
国語(200点)	国語	498,200	119.3	516,858	121.6	▲ 18,658	▲ 2.2	
地理 歴史・ 公民	地理歴史(100点)	世界史A	1,765	51.2	1,346	47.6	419	3.6
		世界史B	91,609	63.0	93,230	65.4	▲ 1,621	▲ 2.4
		日本史A	2,429	44.6	2,359	50.6	70	▲ 6.0
		日本史B	160,425	65.5	169,613	63.5	▲ 9,188	1.9
		地理A	2,240	54.5	2,100	57.1	140	▲ 2.6
	地理B	143,036	66.4	146,229	62.0	▲ 3,193	4.3	
	公民(100点)	現代社会	73,276	57.3	75,824	56.8	▲ 2,548	0.5
		倫理	21,202	65.4	21,585	62.3	▲ 383	3.1
		政治・経済	50,398	53.8	52,977	56.2	▲ 2,579	▲ 2.5
		倫理、政治・経済	48,341	66.5	50,886	64.2	▲ 2,545	2.3
数学	数学①(100点)	数学Ⅰ	5,584	35.9	5,362	36.7	222	▲ 0.8
		数学Ⅰ・数学A	382,151	51.9	392,486	59.7	▲ 10,335	▲ 7.8
	数学②(100点)	数学Ⅱ	5,094	28.4	5,378	30.0	▲ 284	▲ 1.6
		数学Ⅱ・数学B	339,925	49.0	349,405	53.2	▲ 9,480	▲ 4.2
		簿記・会計	1,434	55.0	1,304	58.9	130	▲ 3.9
		情報関係基礎	380	68.3	395	49.9	▲ 15	18.5
理科	理科①(50点)	物理基礎	20,437	33.3	20,179	30.6	258	2.7
		化学基礎	110,955	28.2	113,801	31.2	▲ 2,846	▲ 3.0
		生物基礎	137,469	32.1	141,242	31.0	▲ 3,773	1.1
		地学基礎	48,758	27.0	49,745	29.6	▲ 987	▲ 2.6
	理科②(100点)	物理	153,140	60.7	156,568	56.9	▲ 3,428	3.7
		化学	193,476	54.8	201,332	54.7	▲ 7,856	0.1
		生物	64,623	57.6	67,614	62.9	▲ 2,991	▲ 5.3
		地学	1,684	39.5	1,936	46.3	▲ 252	▲ 6.8
外国語(200点)	英語	筆記(200点)	518,401	116.3	537,663	123.3	▲ 19,262	▲ 7.0
		リスニング(50点)	512,007	28.8	531,245	31.4	▲ 19,238	▲ 2.6
		筆+リ(200点換算)	—	116.1	—	123.8	—	▲ 7.7
	ドイツ語	116	147.9	118	152.2	▲ 2	▲ 4.3	
	フランス語	121	138.4	102	138.6	19	▲ 0.2	
	中国語	667	167.4	665	150.9	2	16.5	
	韓国語	135	147.5	174	126.3	▲ 39	21.3	

<注>

- ① 英語の平均点(200点)は、「筆記」(200点)＋「リスニング」(50点)の250点満点を200点に圧縮換算。
- ② 大学入試センター発表の科目別平均点は小数第2位の表示だが、上記では小数第1位で表示。
- ③ 表中の「平均点対前年差」は、四捨五入の関係で「2020年－2019年」と一致しない場合もある。  
▲印は「ダウン」(平均点)、および「減」(受験者数)を示す。
- ④ 地歴(各B科目間)、公民(「倫理、政治・経済」除く、各科目間)、理科②(発展科目間)における得点調整は、「倫理」－「政治・経済」の11.62点が最大(地学は受験者数が1万人未満のため対象外)で、実施されなかった。

旺文社 教育情報センター(2020年2月28日)



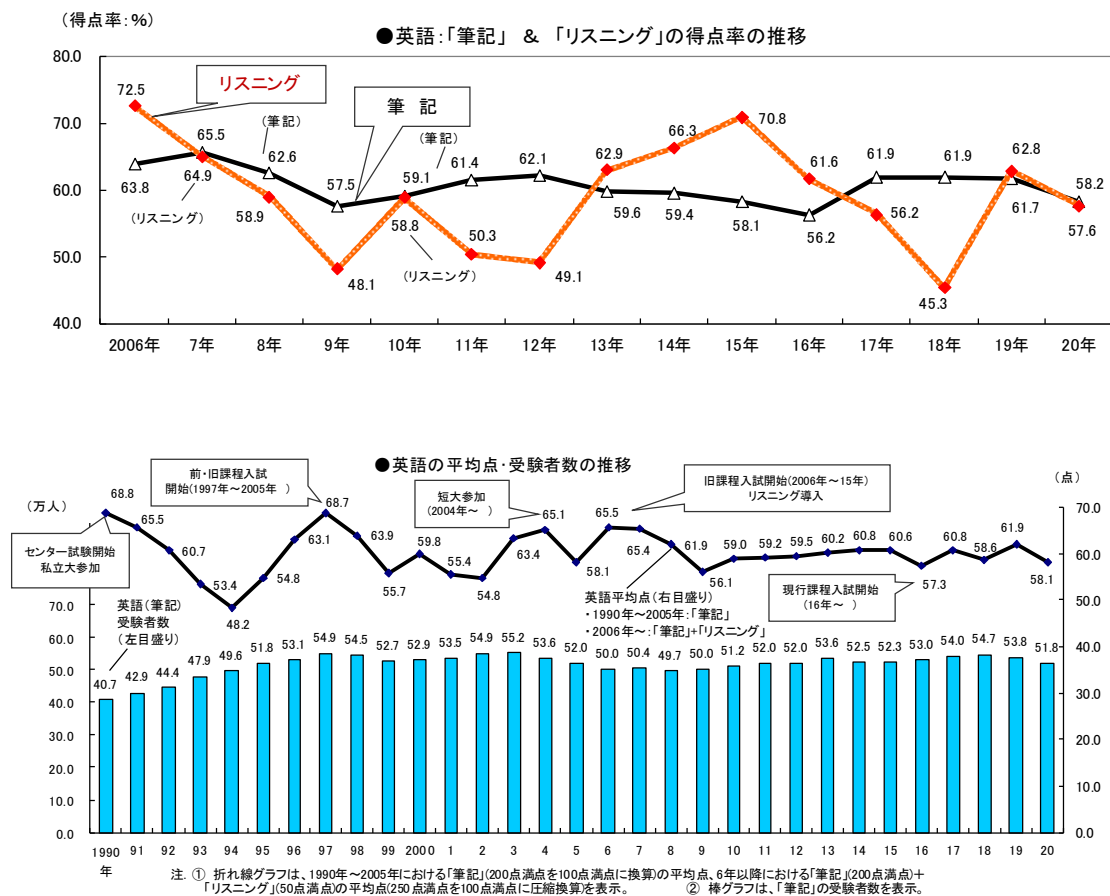
■ **英語**; 筆記、リスニングともにダウンで、「筆記+リスニング」は8点弱のダウン  
 筆記は4年ぶりに得点率50%台に下降！

◎ 2020年の英語の平均点は筆記が7.0点ダウン、リスニングが2.6点ダウンし、全体(筆記+リスニング:250点満点を200点満点に圧縮換算)では7.7点ダウンの116.1点だった。

1990年のセ試開始から2020年までの英語の平均点(1990年～2005年までは筆記のみ、2006年以降は筆記+リスニング)の推移をみると、1994年に過去最低の96.4点(得点率48.2%)を記録した後、V字回復で得点率は概ね5割台半ば～6割台を推移。2013年～15年は6割を維持したが、2016年は割り込んだ。2017年は121.5点(同60.8%)で、2年ぶりに6割台を回復したが、2018年は割り込んだ。2019年は117.1点(同58.6%)で再び5割台に下降し、2020年は6割台となったが、2020年は再び5割台(同58.1%)となった。

◎ 最近の筆記は、2012年の124.2点(得点率62.1%)以降、2016年の112.4点(同56.2%)まで4年連続ダウンした。しかし、2017年は123.73点(同61.9%)で5年ぶりにアップし、2018年・19年と維持したが、2020年は116.3点と大きくダウンした。

一方、リスニングは、2006年の導入時に平均点36.3点(50点満点、得点率72.5%)の高得点を示した後、2009年の24.0点(同48.1%)まで3年連続で急降下。最近では2015年の35.4点(同70.8%)から3連続ダウンし、2018年は“過去最低”の22.7点(同45.3%)だった。2019年は大幅アップの31.4点(同62.8%)となったが、2020年は再びダウンした。



■ **国語**; 平均点は-2.2 点の 119.3 点。得点率は 60%を割る！

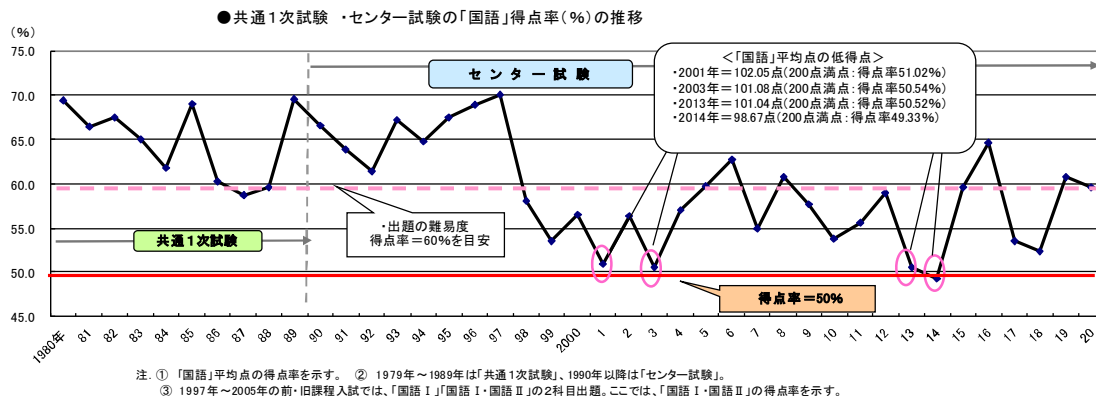
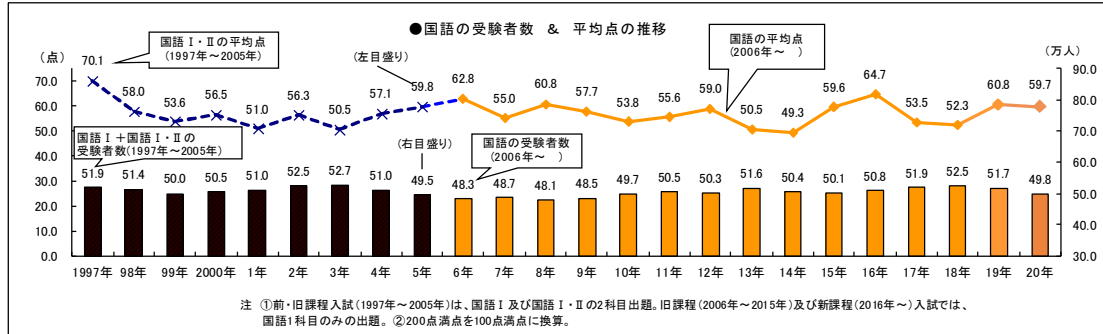
◎ セ試では英語に次いで受験者の多い国語について、1997 年～2020 年の平均点(下図は 200 点満点を 100 点満点に換算)と受験者数、得点率の推移を下図に示した。

◎ 1997 年の国語 I・II (1997 年～2005 年までは、国語 I と国語 I・II の 2 科目。受験者数は圧倒的に国語 I < 国語 I・II) の平均点は 140.2 点と高得点であったが、1998 年には大幅にダウン。その後は 100 点台～110 点台のアップ・ダウンを繰り返した。

2012 年は得点率を 60%直前まで回復していたが、2013 年は現代文の難化で、それまでの最低点(2003 年の 101.1 点)より若干低い 101.0 点となった。2014 年は、古文の難化などで平均点は 98.7 点まで下降。共通 1 次試験(1979 年～1989 年：11 回実施)とセ試(1990 年～)を通して初めて平均点(得点率)が 50%を割り、過去最低となった。

◎ 2016 年は得点率が 60%台に達したが、2017 年は再び下降して得点率は 53.5%。2018 年も平均点が 2.3 点ダウンして 104.7 点となり、得点率はさらに下降して 52.3%だった。2019 年は一転して平均点が 16.9 点アップして 121.6 点となり、得点率も 60%を超えたが、2020 年は再びダウンし、得点率は 60%を割った。

◎ 国語の得点率は、概して「共通 1 次」時代と「セ試」時代の前半(1997 年まで)はほぼ 60%以上(1987・88 年はわずかに 60%割れ)の高得点率、それ以降は、ほぼ 50%台半ば～後半で推移。しかし、最近は、2013・14 年の急落、2015・16 年の V 字回復、2017・18 年の下降、2019 年の急増、2020 年のダウンといった、平均点のアップ・ダウンが目立つ。



■ **数学**；数学Ⅰ・Aの平均点は7.8点の51.9点、数学Ⅱ・Bは4.2点の49.0点！

◎ 数学は2015年から現行課程に沿って先行実施され、出題範囲・内容は現行課程の学習指導要領に対応して変更されたが、平均点等の経年比較は新・旧課程の同一名称の科目間でみる。ただ、2015年の「経過措置」による旧課程「数学」の平均点は除く。

セ試験開始(1990年)以降、2020年までの31回に及ぶ数学Ⅰ・A(1990年～96年までは旧・数学Ⅰ)と、数学Ⅱ・B(1990年～96年までは旧・数学Ⅱ)との平均点の推移を下図に示した。

◎ 数学Ⅰ・A(旧・数学Ⅰ含む。以下、同)のこれまでの最低点は2010年の49.0点で、セ試験開始以降初めて5割を割った。最高点は2000年の73.7点。

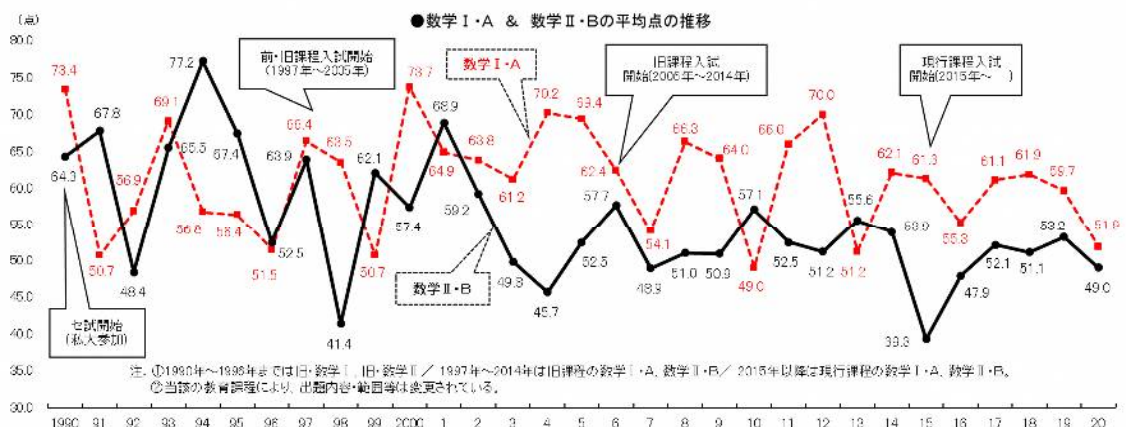
一方、数学Ⅱ・B(旧・数学Ⅱを含む。以下、同)の最低点をみると、現行課程初年度となった2015年の39.3点、最高点は1994年の77.2点で、その較差は37.9点に達する。

◎ 数学Ⅱ・Bの平均点は2020年も含め、過去31回の試験(本試験)で50点未満が8回もあって変動幅も大きいのに対し、数学Ⅰ・Aの平均点50点未満は2010年の1回のみである。

数学Ⅱ・Bは出題範囲が広く、応用問題も出題しやすいため、数学Ⅰ・Aに比べ、難易や問題量などによって不安定な平均点を示しているとみられる。

◎ 最近の数学Ⅰ・Aの平均点は、2010年にこれまで唯一の50点割れとなった49.0点まで急落し、2001年以来9年ぶりに数学Ⅱ・Bを下回った。その後、2011年・12年と2年連続上昇して数学Ⅱ・Bを上回った。2013年は大幅ダウンで数学Ⅱ・Bを下回ったが、2014年は大幅アップ、2015年・16年は2年連続ダウン。2017・18年は連続アップしたが、19年・20年と再びダウンとなった。特に2020年の平均点は7.8点の大幅ダウンとなった。

一方、数学Ⅱ・Bは、2010年に数学Ⅰ・Aを上回ったが、2011年・12年と2年連続ダウンした。2013年は3年ぶりに上昇して数学Ⅰ・Aを上回ったが、2014年・15年ともダウンして数学Ⅰ・Aを下回った。特に、2015年は平均点39.3点と、過去最低であった。2016年は8.6点アップで平均点は47.9点、2017年も4.2点アップの52.1点と2年連続アップしたが、2018年は3年ぶりのダウンで平均点は51.1点となった。2019年は上昇に転じ、2.1点アップの53.2点となったが、2020年は4.2点ダウンで50点を割った。



□数学2科目受験は、「数学Ⅰ・A + 数学Ⅱ・B」が約33万9,000人。2科目受験者の98.1%！

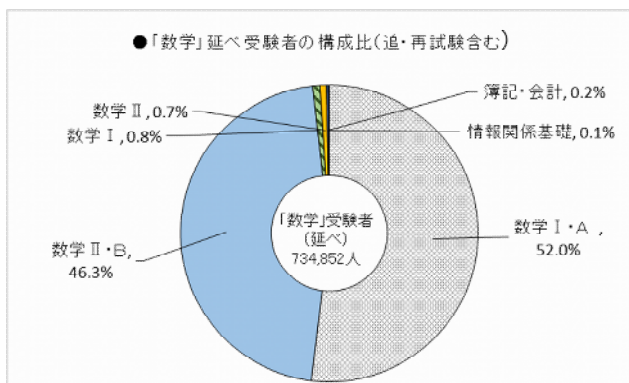
◎ 2020年の数学(数学①と数学②)の実受験者数は38万8,930人。そのうち、「1科目受験者」数は4万3,008人(実受験者数に占める構成率11.1%)、「2科目受験者」数は34万5,922人(同88.9%)である。

他方、数学①と数学②の延べ受験者数は73万4,852人。そのうち、数学①の「数学Ⅰ・A」の受験者数は38万2,302人(延べ受験者数に占める構成率52.0%)、数学②の「数学Ⅱ・B」の受験者数は34万56人(同46.3%)である。

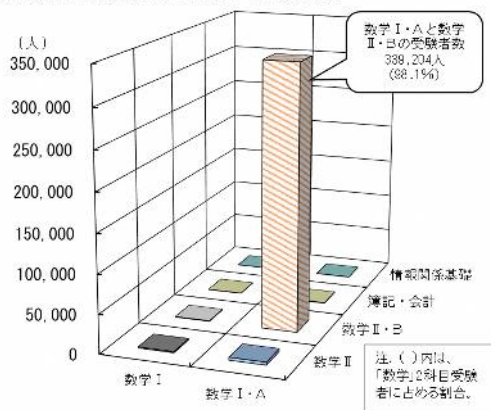
また、数学①と数学②の「2科目受験者」(実受験者数34万5,922人)のうち、98.1%を占める33万9,204人が「数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B」を受験している。

◎ ところで、数学は国公立大入試において、理系のみならず、文系にとっても基幹教科であり、上記のように「数学Ⅰ・A」と「数学Ⅱ・B」が主体となっている。

因みに、2020年セ試受験者数の多い科目をみると、「英語(筆記)」約52万人／「英語(リスニング)」約51万2,000人／「国語」約49万8,000人／「数学Ⅰ・A」約38万2,000人／「数学Ⅱ・B」約34万人となっており、この後に理科(約19万4,000人～約2,000人)や地歴(約16万人～約2,000人)、公民(約7万3,000人～約2万1,000人)が続いている。



●数学2科目受験者の内訳(追・再試験含む)



●「数学」2科目受験者：345,922人の内訳

数 学	数 学 ②				
	数学Ⅱ (人)	数学Ⅱ・B (人)	簿記・会計 (人)	情報関係基礎 (人)	
①	数学Ⅰ	1,387 (0.4%)	595 (0.2%)	236 (0.1%)	52 (0.0%)
	数学Ⅰ・A	3,640 (1.1%)	339,204 (98.1%)	557 (0.2%)	251 (0.1%)

注. ( )内は、「数学」2科目実受験者に占める割合。

■ **地歴・公民**：「公民」政治・経済のみ“ダウン”。

[地歴、公民]2科目受験者は約4,100人(2.8%)“減”の約14.4万人！

□ 地歴と公民の受験者動向等

◎ 地歴・公民の試験枠

地歴と公民の試験枠は統合されており、[地歴、公民]([ ])は試験枠を示す。以下、同の全10科目から最大2科目の選択が可能である。

ただし、日本史Aと日本史Bなど、同一名称を含む科目同士の組合せ・選択はできない。

◎ 「地歴」で日本史B、地理Bなどで平均点“アップ、公民は政治・経済のみダウン

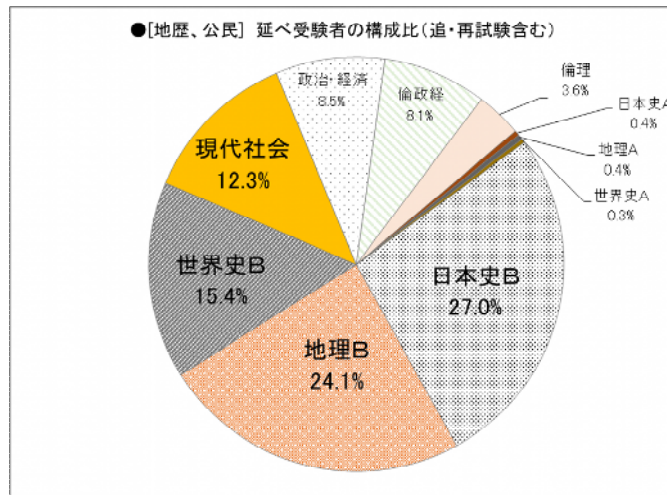
地歴の平均点は、地理B+4.3点(得点率66.4点)、日本史B+1.9点(得点率65.5点)はアップしたものの、世界史B-2.4点(同63.0点)がダウン。受験者の少ない“A科目”は世界史A+3.6点(同51.2点)はアップ、日本史A-6.0点(得点率44.6点)、地理A-2.6点(同54.5点)はダウンした。

公民は、政治・経済が-2.5点(同53.8点)とダウンしたが、倫理+3.1点(同65.4点)、「倫理、政治・経済」(以下、倫政経。4単位相当。他の公民科目は2単位)+2.3(同66.5点)、現代社会が+0.5点(同57.3点)はアップした。

◎ 地歴の受験者数は約13,100人(3.3%)“減少”。公民は約7,900人(4.0%)“減少”！

セ試の全受験者数(52万7,072人。追・再試験含む)が2019年より3.5%減少した中、地歴の実受験者数(追・再試験含む)は、2019年より1万3,120人(前年比3.3%)減の38万3,532人。全受験者数に占める地歴の「受験選択率」は、72.6%である。一方、公民の実受験者数は、2019年より7,930人(同4.0%)減の19万1,024人。

なお、地歴と公民の延べ受験者数合計は、2019年より3.5%減の59万4,950人である。



□ [地歴、公民]“2科目受験”の状況

◎ 地歴と公民の2科目の実受験者数(追・再試験含む)は、2019年より4,104人(前年比2.8%)減の14万4,394人である。

試験枠[地歴、公民]の10科目(地歴A=3科目、地歴B=3科目、公民=4科目)から2科目を選択・受験する組合せは、全部で40通り(同一名称を含む組合せを除く)になる。



この40通りを地歴と公民の2教科の組合せで大別すると、次の3パターンになる。

(1) 「地歴」1科目 + 「公民」1科目受験：約12万4,100人、85.9%

「地歴」1科目と「公民」1科目の組合せによる2科目受験者(実受験者。以下、同)は、2019年より3,279人(前年比2.6%)減の12万4,100人([地歴、公民]2科目受験者に占める割合85.9%)で、2科目受験者の9割近くを占める。このタイプの組合せは、24通りになる。このうち、「地歴B」と「公民」の受験が12万2,008人(同84.5%)で、圧倒的に多い。

科目別の組合せでは、日本史Bと現代社会の組合せが2万6,618人(同18.4%)／日本史Bと政治・経済の組合せが1万6,858人(同11.7%)／日本史Bと倫政経の組合せが1万6,687人(同11.6%)などとなっている。

(1) 「地歴」1科目・「公民」1科目受験

① 「地歴B科目」×「公民」受験：122,008人(84.5%)の内訳

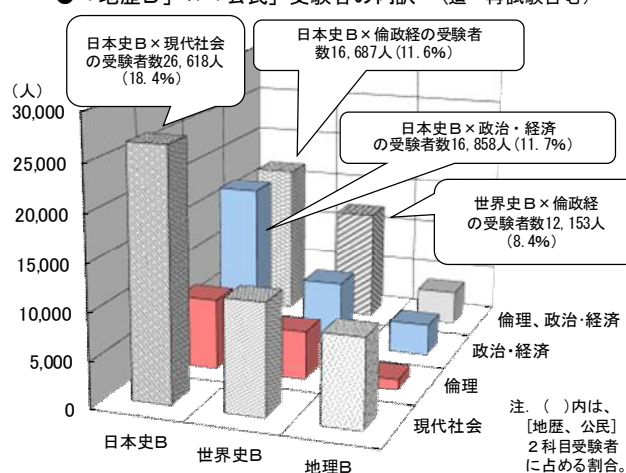
		公 民			
		現代社会 (人)	倫 理 (人)	政治・経済 (人)	倫理、 政治・経済(人)
地 歴	日本史B	26,618 (18.4%)	7,651 (5.3%)	16,858 (11.7%)	16,687 (11.6%)
	世界史B	11,895 (8.2%)	5,186 (3.6%)	7,122 (4.9%)	12,153 (8.4%)
	地 理B	9,437 (6.5%)	1,222 (0.8%)	3,393 (2.3%)	3,786 (2.6%)

② 「地歴A科目」×「公民」受験：2,092人(1.4%)の内訳

		公 民			
		現代社会 (人)	倫 理 (人)	政治・経済 (人)	倫理、 政治・経済(人)
地 歴	日本史A	442 (0.3%)	72 (0.0%)	278 (0.2%)	29 (0.0%)
	世界史A	251 (0.2%)	76 (0.1%)	165 (0.1%)	20 (0.0%)
	地 理A	468 (0.3%)	39 (0.0%)	129 (0.1%)	23 (0.0%)

注。( )内は、[地歴、公民]2科目受験者に占める割合。

● 「地歴B」×「公民」受験者の内訳 (追・再試験含む)



(2)「地歴」2科目受験:約1万8,000人、12.6%

2012年セ試から導入されている、地歴と公民の「試験枠」統合の要因にもなった「地歴」2科目受験については、受験者が2019年より478人(前年比2.6%)減の1万8,127人([地歴、公民]2科目受験者に占める割合12.6%)である。

また、「地歴B」科目同士の2科目受験者は、2019年より464人(前年比2.5%)減の1万7,776人([地歴、公民]2科目受験者に占める割合12.3%)となった。

「地歴」2科目受験による科目の組合せは、12通りになる。

科目別の組合せでは、地理Bと世界史Bの組合せが7,418人([地歴、公民]2科目受験者に占める割合5.1%)／日本史Bと世界史Bの組合せが6,972人(同4.8%)のほか、日本史Bと地理Bの組合せが3,386人(同2.3%)となっている。

(2)「地歴」2科目受験

①「地歴B科目」×「地歴B科目」受験：  
17,776人(12.3%)の内訳

地歴	地歴	
	世界史B(人)	地理B(人)
日本史B	6,972 (4.8%)	3,386 (2.3%)
世界史B	—	7,418 (5.1%)

②「地歴A科目」×「地歴A科目」受験：  
140人(0.1%)の内訳

地歴	地歴	
	世界史A(人)	地理A(人)
日本史A	54 (0.0%)	28 (0.0%)
世界史A	—	58 (0.0%)

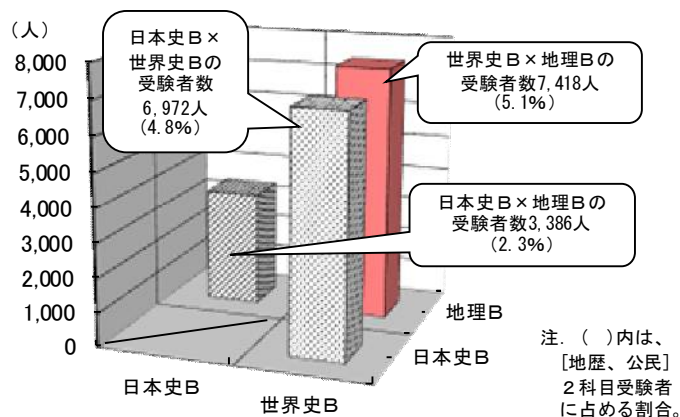
注：( )内は、[地歴、公民]2科目受験者に占める割合。 注：( )内は、[地歴、公民]2科目受験者に占める割合。

③「地歴A・B科目」×「地歴A・B科目」受験：  
211人(0.1%)の内訳

地歴	A・B科目	受験者(人)
日本史	A科目×世界史B	30(0.0%)
	B科目×世界史A	49(0.0%)
世界史	A科目×地理B	50(0.0%)
	B科目×地理A	33(0.0%)
地理	A科目×日本史B	31(0.0%)
	B科目×日本史A	18(0.0%)

注：( )内は、  
[地歴、公民]  
2科目受験者  
に占める割合。

●「地歴B」2科目受験者の内訳(追・再試験含む)



(3)「公民」2科目受験：約 2,300 人、1.6%

「公民」同士2科目の組合せは4通りで、受験者は2019年より247人(前年比9.8%)減の2,267人([地歴、公民]2科目受験者に占める割合1.6%)である。

科目別の組合せでは、現代社会を基軸に、政治・経済との組合せが1,742人(同1.2%)／倫理との組合せが206人(同0.1%)のほか、政治・経済と倫理との組合せが145人(同0.1%)などである。

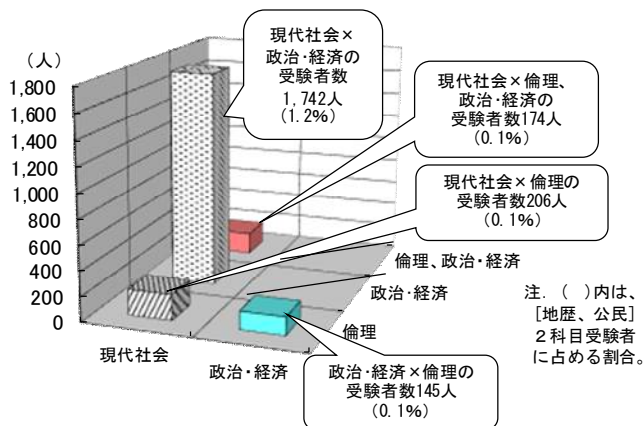
(3)「公民」2科目受験

●「公民」4科目から2科目受験：2,267人(1.6%)の内訳

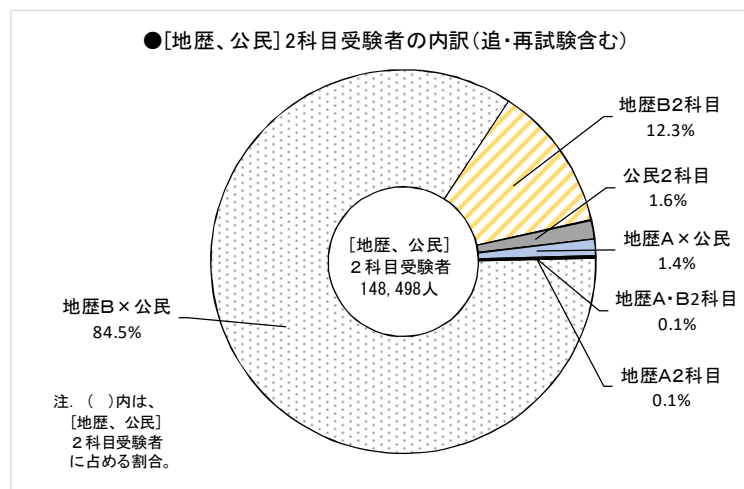
公民	公民		
	倫理 (人)	政治・経済 (人)	倫理、 政治・経済(人)
現代社会	206 (0.1%)	1,742 (1.2%)	174 (0.1%)
政治・経済	145 (0.1%)	—	—

注. ( )内は、[地歴、公民]2科目受験者に占める割合。

●「公民」2科目受験者の内訳(追・再試験含む)



●[地歴、公民]2科目受験者の内訳(追・再試験含む)



- **理科**：「基礎科目」受験者約 15 万 9,000 人、「発展科目」受験者約 23 万 1,000 人！  
「選択パターン」別受験者比率：A=38%、B=9%、C=5%、D=49%！

□ 「理科」の選択解答方法

2015 年から現行課程に対応して先行実施された「理科」は、物理・化学・生物・地学の 4 領域の各「基礎科目」（標準 2 単位）を理科①に、各「発展科目」（標準 4 単位）を理科②に配置し、全 8 科目を次のような A～D の“4 パターン”のいずれかによって選択解答する。

- A＝「基礎 2 科目」：物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2 科目選択解答。  
(4 単位相当)
- B＝「発展 1 科目」：物理、化学、生物、地学から 1 科目選択解答。(4 単位相当)
- C＝「基礎 2 科目＋発展 1 科目」：物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2 科目、及び物理、化学、生物、地学から 1 科目選択解答。  
(3 科目選択解答：8 単位相当)
- D＝「発展 2 科目」：物理、化学、生物、地学から 2 科目選択解答。(8 単位相当)

◎ 選択解答の留意事項

- 「発展科目」については、旧課程で“選択履修”であった学習項目が現行課程では“必修化”されたが、受験者の大幅な負担増にならないように“一部に選択問題”が配置されている。
- 理科①(基礎科目：50 点満点)については、“1 科目のみの受験は認められない”。  
試験時間は 2 科目で 60 分。
- 理科②(発展科目：100 点満点)の試験時間において 2 科目を選択する場合、解答順に「第 1 解答科目」及び「第 2 解答科目」に区分して各 60 分間で解答する。「第 1 解答科目」と「第 2 解答科目」の間の答案回収等の時間を含め、合計時間(130 分)が試験時間となる。
- 選択解答方法(A～D)は、出願時に「事前登録」する。
- 選択解答方法 C における「基礎科目」と「発展科目」の組合せで、同一名称を含む科目同士の選択については制限されず、同一名称を含む科目同士の選択は可能である。  
ただし、セ試を利用する大学(学部)によっては、「基礎科目」と「発展科目」における同一名称を含む科目の組合せを不可としているところがある。  
因みに、地歴と公民では、同一名称を含む科目の組合せで 2 科目選択はできない。

□ 受験者の動向

◀理科①の受験状況▶

(1) 「基礎科目」受験者：前年比 2.3%“減”の約 15 万 8,800 人。「理科」受験者の 40.7%

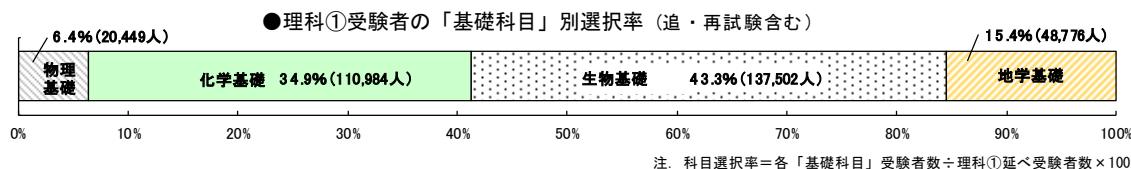
理科①の「基礎科目」の実受験者数は 15 万 8,823 人で、理科②の実受験者数 23 万 1,182 人との合計 39 万 5 人(C パターンの理科①と理科②の重複受験者含む)の 40.7%である。

2020 年の「基礎科目」の実受験者数は、前年に比べ 3,752 人、2.3%の減少となった。物理基礎が約 250 人(前年比 1.3%)増加したのに対し、化学基礎は約 2,900 人(同 2.5%)減、生物基礎は約 3,800 人(同 2.7%)減、地学基礎は約 1,000 人(同 2.0%)減となっている。

(2) 「基礎科目」の科目別選択率：生物基礎 43.3%、化学基礎 34.9%

理科①の「基礎科目」の延べ受験者数 31 万 7,711 人の受験状況は、次のとおりである。

生物基礎は受験者数 13 万 7,502 人、理科①の延べ受験者数に占める割合 43.3% / 化学基礎は 11 万 984 人、同 34.9% / 地学基礎は 4 万 8,776 人、同 15.4% / 物理基礎は 2 万 449 人、同 6.4% で、「基礎科目」受験は生物基礎と化学基礎が中心となっている。

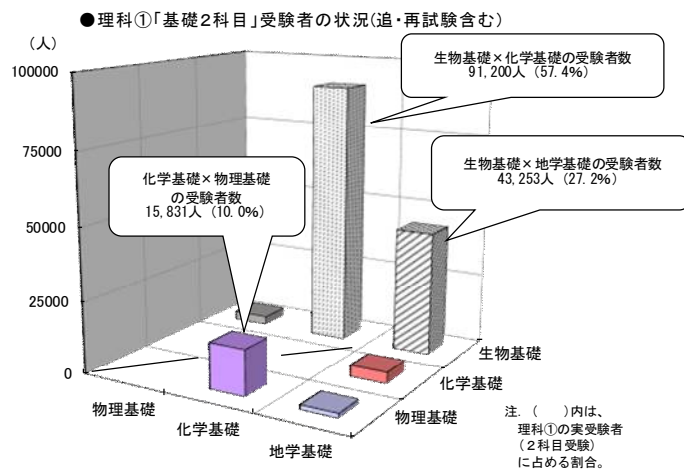


(3)「基礎2科目」の組合せ：

「生物基礎＋化学基礎」57.4% / 「生物基礎＋地学基礎」27.2% など、“文系色” 反映！  
「基礎科目」は“2科目受験が必須” となっており、受験科目の組合せ状況は、次のとおりである。

「生物基礎＋化学基礎」は受験者数 9 万 1,200 人、科目選択率 57.4% (理科①の実受験者数に占める割合) / 「生物基礎＋地学基礎」は受験者数 4 万 3,253 人、同 27.2% / 「化学基礎＋物理基礎」は受験者数 1 万 5,831 人、同 10.0% など。

「基礎科目」は、生物基礎を中心に化学基礎や地学基礎との組合せが主体で、例年同様、“文系志望者” 受験を反映した結果となっている。



●理科①：「基礎2科目」受験者数158,823人の科目選択内訳（追・再試験含む）

種 科 ①	理 科 ①			
	物理基礎(人)	化学基礎(人)	生物基礎(人)	地学基礎(人)
物理基礎	—	15,831 (10.0%)	3,016 (1.9%)	1,587 (1.0%)
化学基礎	—	—	91,200 (57.4%)	3,936 (2.5%)
生物基礎	—	—	—	43,253 (27.2%)

注：( )内は、「基礎2科目」実受験者に占める割合。

(1) 「発展科目」受験者:約 23 万 1,000 人、「理科」受験者の 59.3%

理科②に配置された「発展科目」の実受験者数は 23 万 1,182 人で、2019 年の理科②の実受験者数 23 万 9,317 人に比べ、8,135 人(3.4%)の減少となる。

また、理科①と理科②の実受験者数の合計 39 万 5 人(C パターンの理科①と理科②の重複受験者含む)に占める「発展科目」の実受験者数の割合は 59.3%で、前年より 0.2 ポイント下回った。

(2) 「発展科目」の延べ受験者の構成比:

「化学」受験 46.9%、「物理」受験 37.1%、「生物」受験 15.6%など、“理系色” 反映!

「発展科目」の延べ受験者数 41 万 3,076 人の各科目の構成比率は、次のとおりである。

化学 46.9%(受験者 19 万 3,554 人)／物理 37.1%(同 15 万 3,192 人)／生物 15.6%(同 6 万 4,643 人)／地学 0.4%(同 1,687 人)。

各科目の構成比率を 2019 年と比べると、物理が 0.5 ポイント上昇、化学、生物がそれぞれ 0.2 ポイント、地学が 0.1 ポイント下降した。

≪「選択パターン」別受験状況≫

(1) 「発展2科目」の A パターンのみ増加

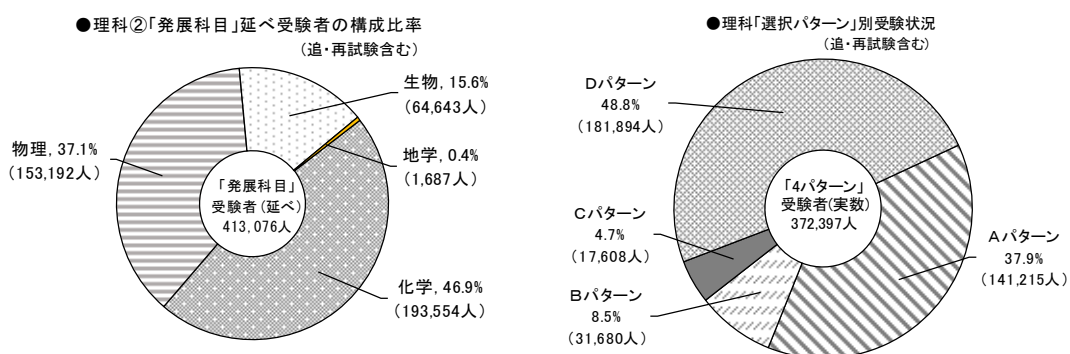
セ試「理科」は、前述のように A～D の 4 パターンからの選択受験となる。

2020 年の各「パターン」別受験者の 4 パターン実受験者数 37 万 2,397 人に占める割合は、次のとおりである。

A パターン: 37.9%(受験者数 14 万 1,215 人)／B パターン: 8.5%(同 3 万 1,680 人)／C パターン: 4.7%(同 1 万 7,608 人)／D パターン: 48.8%(同 18 万 1,894 人)。

「発展 2 科目」選択の D パターンの受験者数は 2019 年より 6,681 人(3.5%)減り、セ試「理科」受験者に占める割合は 0.3 ポイント下降した。B、C パターンの割合はほぼ前年並み。一方、A パターンは 0.3 ポイントの上昇となった。4 パターン合計の受験者数(理科の実受験者数)は、前年より 11,315 人(2.9%)減の 37 万 2,397 人となった。

なお、看護・医療系などにみられる“C パターン”(基礎 2 科目+発展 1 科目: 8 単位相当)は 2019 年より 572 人減の 1 万 7,608 人だった。



(2) A:「生物基礎＋化学基礎」主体 / B:物理、化学、生物の1科目選択比率ほぼ“均等”

C:「生物基礎＋化学基礎＋生物」主体 / D:「化学＋物理」主体

A～Dの各パターンの科目選択の内訳をみると、およそ次のようになっている。

Aパターンは、「生物基礎＋化学基礎」が60%近くで主体/Bパターンは物理(約42%)が多く、生物(約29%)、化学(約28%)の1科目選択比率がほぼ均等/Cパターンは、「生物基礎＋化学基礎＋生物」が約43%で主体となっている。また、Dパターンは「化学＋物理」が約74%、「化学＋生物」が約25%である。

●Aパターン：実受験者数141,215人の科目選択内訳（追・再試験含む）

理 科	理 科 ①			
	物理基礎(人)	化学基礎(人)	生物基礎(人)	地学基礎(人)
物理基礎	—	10,509 (7.4%)	2,400 (1.7%)	1,411 (1.0%)
化学基礎	—	—	81,143 (57.5%)	3,493 (2.5%)
生物基礎	—	—	—	42,259 (29.9%)

注. ① 理科①(基礎科目)から2科目を選択受験。  
② ( )内は「Aパターン」の実受験者に占める割合。  
③ 太枠、網かけの枠は“選択比率の高い”科目の組合せを示す。

●Bパターン：実受験者数31,680人の科目選択内訳（追・再試験含む）

理 科 ②			
物 理(人)	化 学(人)	生 物(人)	地 学(人)
13,348 (42.1%)	8,893 (28.1%)	9,320 (29.4%)	119 (0.4%)

注. ① 理科②(発展科目)から1科目を選択受験。  
② ( )内は「Bパターン」の実受験者に占める割合。  
③ 太枠、網かけの枠は“選択比率の高い”科目の組合せを示す。

●Cパターン：実受験者数17,608人の科目選択内訳（追・再試験含む）

理 科	理 科 ①					
	物 理 基 礎			化 学 基 礎		生 物 基 礎
	化学基礎(人)	生物基礎(人)	地学基礎(人)	生物基礎(人)	地学基礎(人)	地学基礎(人)
物 理	2,935 (16.7%)	235 (1.3%)	116 (0.7%)	430 (2.4%)	105 (0.6%)	25 (0.1%)
化 学	1,997 (11.3%)	262 (1.5%)	34 (0.2%)	2,008 (11.4%)	73 (0.4%)	143 (0.8%)
生 物	367 (2.1%)	114 (0.6%)	5 (0.0%)	7,554 (42.9%)	235 (1.3%)	486 (2.8%)
地 学	23 (0.1%)	5 (0.0%)	21 (0.1%)	65 (0.4%)	30 (0.2%)	340 (1.9%)

注. ① 「理科①(基礎科目)から2科目＋理科②(発展科目)から1科目」の選択受験。  
② ( )内は「Cパターン」の実受験者に占める割合。  
③ 太枠、網かけの枠は“選択比率の高い”科目の組合せを示す。

●Dパターン：実受験者数181,894人の科目選択内訳（追・再試験含む）

理 科	理 科 ②			
	物 理(人)	化 学(人)	生 物(人)	地 学(人)
物 理	—	134,641 (74.0%)	860 (0.5%)	497 (0.3%)
化 学	—	—	45,309 (24.9%)	194 (0.1%)
生 物	—	—	—	393 (0.2%)

注. ① 理科②(発展科目)から2科目を選択受験。  
② ( )内は「Dパターン」の実受験者に占める割合。  
③ 太枠、網かけの枠は“選択比率の高い”科目の組合せを示す。

## □ 「理科」平均点

◎ 物理は3.7点アップ／化学は0.1点アップ／生物は5.3点ダウン／

文系志望者の受験が多い「基礎科目」の平均点(50点満点)を得点率でみると、物理基礎66.6%、化学基礎56.4%、生物基礎64.2%、地学基礎54.1%である。

他方、各「発展科目」における平均点(100点満点)及び前年差は、次のとおり。

物理60.7点(+3.7点)、化学54.8点(+0.1点)、生物57.6点(-5.3点)、地学39.5点(-6.8点)。なお、地学の平均点は2016年の38.6点に次ぐ過去2番目の低得点だった。